



環境・エネルギー分野

研究領域

「地球規模の環境課題の解決に資する研究」

採択年度	2021年	研究期間	5年間
研究課題名	気候変動適応へ向けた森林遺伝資源の利用と管理による熱帯林強靱性の創出	貢献する主なSDGs	 
研究代表機関	国際農林水産業研究センター 林業領域		
相手国	インドネシア共和国	主要相手国研究機関	ガジャマダ大学
研究課題の概要			
<p>本研究は、「気候変動に強靱な林業樹種」をインドネシアの大学、研究所、民間企業と共同開発し、気候変動に脆弱な既存林業のレジリエンス（復元力・回復力）を高め、持続的な産業に改善することを目指す。具体的には、熱帯林再生や社会林業（住民参加型の林業）に適した6つの樹種について、気候変動により高い強靱性を持つ優良個体をゲノム情報（DNA中の塩基配列）を活用して選抜し、それら優良個体の種苗を細胞培養などによって量産する技術を確立する。さらに、気候変動に対してレジリエンスの高い林業を促進した場合の効果を、木材生産量や生態系機能（温室効果ガス吸収や非木材資源量など）、地域社会や地域経済の観点から評価し、林業促進の必要性や有用性を科学的に明らかにする。</p>			